

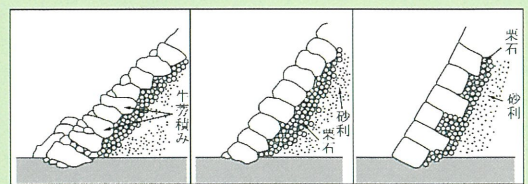
越前大野城 沿革

- 天正3年(1575) 金森長近、織田信長より大野郡の3分の2の領地を与えられる
- 4年(1576) 長近、大野城の普請と城下町の建設を始める
- 8年(1580) 大野城が完成したと伝えられる
- 安永4年(1775) 野口村(現在の大野市役所近辺)から出火、城下1400戸を焼く大火となり、大野城にも飛火して天守閣など焼失
- 寛政7年(1795) 天守を除いて再建される
- 明治6年(1873) 明治新政府発布の「全国城郭存廃ノ処分並兵営地等撰定方」(廃城令)により、残された建造物も取り壊される
- 昭和43年(1968) 元士族の萩原貞氏の寄付金により、絵図を元に鉄筋コンクリート構造によって再建。(しかし、小天守が天狗の間の位置に建てられていることなど史実に基づいた再建ではありません。)

越前大野城 概要

大野城は亀山を利用して築かれた梯郭(ていかく)式の平山城でした。亀山の山頂を削り平坦にして本丸をつくり、その東側に二の丸や三の丸などをつくりました。また、南・北・東の三方には人工の外堀をめぐるしました。東側の端には今も人工の外堀である百間堀の一部が残されています。西方には赤根(あかね)川が流れ、各所に沼地があり天然の堀として城の守りを固めました。

城の石垣は、戌山(いぬやま)城の城石を運んだという伝承が残っています。また、犬山集落の中腹には岩石を砕いて運んだ跡も残されており、築城の石垣に使われたことを示しています。ほかにも、付近の山々から多くの人々の力で運ばれたと思います。石垣の積み方は、自然石をそのまま積む野面(のづら)積みです。



石垣の積み方

野面積み 打込はぎ 切込はぎ

(大野市発行: 大野のあゆみ 一改訂版一 より)



《利用案内》

入館料金 大人 300円(30名以上の団体:150円)
中学生以下 無料

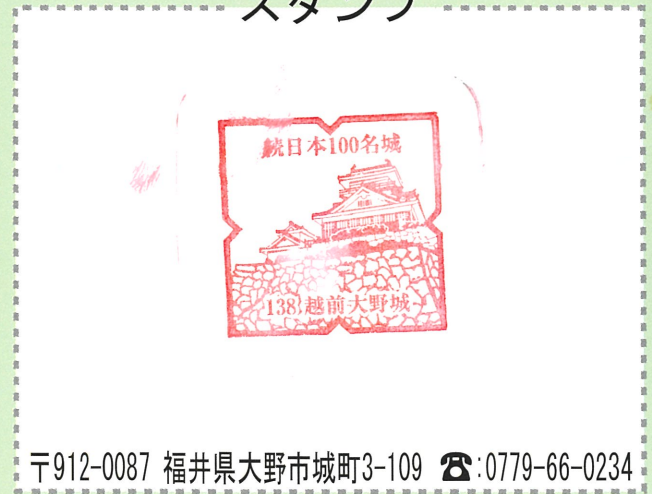
開館時間 午前9時~午後5時
10・11月は午後4時まで

休館日 12月1日~3月31日

JR越前大野駅から南登り口まで 徒歩20分
結ステーションから南登り口まで 徒歩5分

南登り口から大野城天守閣まで 徒歩20分

スタンプ



〒912-0087 福井県大野市城町3-109 ☎:0779-66-0234

結の故郷
越前おおの

越前大野城



Echizen Ono Castle

越前大野城主一覧

▲金森 長近（カナモリ ナガチカ）
大永 4 年（1524）～慶長 13 年（1608）
飛騨守、兵部大輔

天正 3 年（1575）、越前大野郡に所領を与えられる。後に剃髪して兵部卿法印と称し、豊臣秀吉に従い、飛騨高山 3 万 8 千石を領治。その後の幾多の軍功により、天正 13 年（1585）、秀吉から飛騨一国を与えられた。慶長 5 年（1600）、関ヶ原の戦いでは東軍に与し、美濃国郡上八幡城攻めなどの功を賞されて 2 万石を増増、初代高山藩主となる。

▲長谷川秀一（ハセガワ ヒデカズ）
？～文禄 3 年（1594）
従五位下、侍従

天正 12 年（1584）、越前東郷城主（大野城入城年不明、金森氏移封後大野を治めたものか）。天正 17 年（1589）、近江肥田城主、文禄 3 年（1594）、朝鮮出兵で病没。

▲青木 一矩（アオキ カズノリ）
天文 10 年（1541）～慶長 5 年（1600）
従五位上、侍従、紀伊守

豊臣氏の一族といわれる。豊臣秀吉に早くから仕え、天正 11 年（1583）の賤ヶ岳の戦いに参加する。天正 15 年（1587）の九州征伐にも参加し、その功績により播磨立石城主となった。のちに越前大野 8 万石、文禄 3 年（1594）に越前府中 10 万石と栄進を重ね、最終的には越前北之庄 21 万石を領した。慶長 5 年（1600）、関ヶ原の戦いでは西軍に与し、降伏直後に病死。

▲織田 秀雄（オダ ヒデカツ）
天正 11 年（1583）～慶長 15 年（1610）
従三位、参議

文禄元年（1592）、豊臣秀吉から越前国大野郡において 5 万石を与えられる。慶長 5 年（1600）の関ヶ原の合戦に際し、秀雄は父信雄の意向に従い西軍に属するが、敗戦。改易された。

▲土屋 正明（ツチャ マサアキ）（福井藩直轄領）
？～慶長 12 年（1607）
北ノ庄藩（福井藩）藩主結城秀康の家臣。城代として大野城に在城。慶長 6 年（1601）に入城か？ 慶長 12 年（1607）、秀康に殉死。

▲土屋 忠次（ツチャ タダツグ）（福井藩直轄領）
父正明の没後、大野城主を継ぐが、父の殉死が幕府の禁に触れて改易。慶長 14 年（1609）追放か？

▲小栗 正勝（オグリ マサカツ）（福井藩直轄領）
慶長 14 年（1609）、入城。

▲松平 直政（マツダイラ ナオマサ）
慶長 6 年（1601）～寛文 6 年（1666）
従五位下、出羽守、従四位下、侍従兼任、従四位上、左近衛権少将。
結城秀康の三男。元和 2 年（1616）、上総姉ヶ崎 1 万石を与えられる。寛永元年（1624）、大野 5 万石。寛永 10 年（1633）、信濃松本 7 万石。寛永 15 年（1638）、出雲松江 18 万 6 千石。

（直政と直基の間 2 年間、丸岡藩主本多成重預かり？）

▲松平 直基（マツダイラ ナオモト）
慶長 9 年（1604）～慶安元年（1648）
従四位下、侍従、大和守
結城秀康の四男。寛永元年（1624）、勝山 3 万石。寛永 12 年（1635）、大野 5 万石。正保元年（1644）、出羽山形 15 万石。慶安元年（1648）、姫路 15 万石に国替えを命じられるが、赴く途上で死去。

▲松平 直良（マツダイラ ナオヨシ）
慶長 9 年（1605）～延宝 6 年（1678）
従四位下、侍従、土佐守、但馬守
結城秀康の六男。寛永元年（1624）、木本 2 万 5 千石。寛永 12 年（1635）、勝山 3 万 5 千石。正保元年（1644）、大野 5 万石。

▲松平 直明（マツダイラ ナオアキ）
明暦 2 年（1656）～享保 6 年（1721）
従四位下、若狭守。（藩主引退後は市正）
松平直良の三男。延宝 6 年（1678）、父直良の跡を継ぐ。天和 2 年（1682）、明石 6 万石。

▲土井 利房（ドイ トシフサ）
寛永 8 年（1631）～天和 3 年（1683）
正保 3 年（1646）、従五位下能登守。延宝 7 年（1679）、従四位下。延宝 8 年（1680）、侍従。
大老・土井利勝の四男。延宝 7 年（1679）から天和元年（1681）まで老中職。天和 2 年（1682）、大野 4 万石。

▲土井 利知（ドイ トシトモ）（利治改め）
延宝 2 年（1674）～延享 2 年（1745）
従五位下、甲斐守
天和 3 年（1683）、10 歳で家督を継ぐ。元禄 8 年（1695）、幕命により丸岡城受け取り。享保 7 年（1722）から寛保元年（1741）まで奏者番。寛保 3 年（1743）、隠居。

▲土井 利寛（ドイ トシヒロ）
享保 3 年（1718）～延享 3 年（1746）
従五位下、伊賀守
寛保 3 年（1743）、家督を継ぐ。「江戸法令」「大野家中法令条条」、伝馬規定など、藩の法制整備を行なうが、在位 3 年で死去。

▲土井 利貞（ドイ トシサダ）
寛保元年（1741）～文化 4 年（1807）
従五位下、能登守
延享 3 年（1746）、6 歳で家督を継ぐ。洪水、凶作、大火が相次ぎ、藩の財政が困窮する。天明 3 年（1783）に勝手向御用掛を創設するなど、財政改革を行うが失敗。文化 2 年（1807）、隠居。

▲土井 利義（ドイ トシノリ）
安永 6 年（1777）～文政元年（1818）
従五位下、右京亮、中務少輔、甲斐守、造酒正
近江彦根藩主・井伊直幸の十男。寛政 3 年（1791）、土井利貞の四女・松と婚約し、利貞の嫡養子となる。文化 2 年（1805）、家督を継ぐ。文化 7 年（1810）、隠居。文武両道の名君とされる。

▲土井 利器（ドイ トシカタ）
天明 3 年（1783）～文政元年（1818）
従五位下、甲斐守
下総関宿藩主・久世広誉の十一男。文化 6 年（1809）、越前大野藩主・土井利義の養子となる。文化 7 年（1810）、利義の隠居により家督を継ぐ。財政難に見舞われる。文政元年（1818）、死去。

▲土井 利忠（ドイ トシタダ）
文化 8 年（1811）～明治元年（1869）
従五位下、能登守（没後従三位）
土井利義の長男。文政元年（1818）、8 歳で家督を継ぐ。天保 13 年（1842）、利忠は自筆をもって「更始の令」を發布。藩政改革を行い、効果を挙げる。文久 2 年（1862）、隠居。明治 15 年（1882）、旧藩士たちにより、大野城ふもとに「柳廼社」が建立され、祭神となる。

▲土井 利恒（ドイ トシツネ）
嘉永元年（1848）～明治 26 年（1893）
従五位上、能登守（明治に至って正四位。子爵）
文久 2 年（1862）、家督を継ぐ。元治元年（1864）、天狗党が大野藩領を通過。明治元年（1868）、新政府より箱館裁判所副総督に任命される。

主な展示資料

（展示替えを行う場合があります）



土井家家紋 丸ノ内水車紋
（大野藩旗・部分）



茶弁当（柳廼社蔵）

土井家伝来
茶糸威鉄錆地五枚胴具足
（柳廼社蔵）



薙刀 銘 泰龍齋宗寛
（柳廼社蔵）